

国立大学未来共創シンポジウム 「地域と共創する北海道の医療の近未来」開催

https://www.asahikawa-med.ac.jp/event/single/post_257.html

このたび旭川医科大学では、地域医療体制の再編・最適化に向け、国・自治体・医療現場が連携して議論を深める場として、国立大学未来共創シンポジウム「地域と共創する北海道の医療の近未来」を開催いたします。本シンポジウムでは、道内3医育大学が連携し、北海道における持続可能な地域医療提供体制の構築に向けて、多様な関係者がそれぞれの立場から課題や展望を共有し、地域と共に歩む医療の将来像について議論を展開します。

さらに、新たな地域医療構想の策定にあたり求められる地域医療提供体制のあり方についても議論を深めます。

※詳細は添付のフライヤーをご覧ください。

国立大学未来共創シンポジウム「地域と共創する北海道の医療の近未来」

日 時：2026年10月18日（日）14時00分～17時00分

場 所：京王プラザホテル札幌 プラザホール

基調講演：「新たな地域医療構想において期待される医科大学の役割」

講師：梶原 峻 氏（前 厚生労働省医政局地域医療計画課課長補佐）

シンポジウム：「2040年に向けた北海道の地域医療の持続可能性をいかに構築するか」

座長：佐古 和廣 氏（北海道医師会副会長

／北海道地域医療構想アドバイザー）

パネリスト：

佐々木 隆行 氏（北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課長）

古元 重和 氏（北海道大学大学院医学研究院医療政策評価学教室教授）

辻 喜久 氏（滋賀医科大学/札幌医科大学 特任教授）

中山 友佳 氏（公立芽室病院看護科）

東 信良 氏（旭川医科大学病院 病院長）

牧野 雄一 氏（旭川医科大学地域共生医育センター 教授）

主 催：国立大学法人旭川医科大学

共 催：一般社団法人国立大学協会

開催趣旨：2040年に向け、高齢化の進展により医療・介護の複合ニーズが増大する一方で、医療人材不足や医療の需要構造が変化することが見込まれています。こうした課題に対応するため、道内3医育大学が、国・自治体・医療の現場と連携しながら地域医療体制の最適化を図り、住民の安心な生活を支える新たな仕組みを地域と共創すること（それぞれの知識やアイデア、強みを持ち寄って、新しい価値や成果を一緒に生み出すこと）をめざします。

【内容に関するお問合せ】

旭川医科大学 地域共生医育センター

<https://www.asahikawa-med.ac.jp/department/facility/chiikikyousei/>

連絡先（事務担当）：地域共生医育センター 陶山 明希子（すやま あきこ）

TEL：0166-68-2792（直通）

E-mail：symposium2026@asahikawa-med.ac.jp

【旭川医科大学 地域共生医育センター】当センターは、我が国、特に北海道で顕著な人口減少、超高齢化などの社会の変化を見極め、地域のニーズに合わせた医療の将来像を設定し、その実践者としての医師の育成にかかわる教育指導体制を充実させることを使命としています。



【本プレスリリースに関するお問合せ】

旭川医科大学事務局総務課広報・社会連携係 TEL：0166-68-2118（直通）

国立大学未来共創シンポジウム

地域と共創する 北海道の医療の 近未来



旭川医科大学
Asahikawa Medical University

参加費
無料

【事前申込制】
会場定員
200名

2026.10.18 日

時間 14:00~17:00 (開場 13:30)

会場 京王プラザホテル札幌 プラザホール
〒060-0005 北海道札幌市中央区北5条西7丁目2-1

参加申込みはこちら



会場参加



オンライン参加

申し込み締切:10月15日(木)

開催趣旨

2040年に向け、高齢化の進展により医療・介護の複合ニーズが増大する一方で、医療人材不足や医療の需要構造が変化することが見込まれています。こうした課題に対応するため、道内3医大が、国・自治体・医療の現場と連携しながら地域医療体制の最適化を図り、住民の安心な生活を支える新たな仕組みを地域と共創することをめざします。

プログラム

14:00~
【開会挨拶】 西川 祐司 (旭川医科大学 学長) 竹澤 孝夫 氏 (北海道保健福祉部長)

14:05~
【基調講演】 「新たな地域医療構想において期待される医科大学の役割」
梶原 峻 氏 (前 厚生労働省医政局地域医療計画課 課長補佐)

14:55~
【シンポジウム】 「北海道の医療の近未来を共創する
-2040年に向けた北海道の地域医療の持続可能性をいかに構築するか-」

座長

佐古 和廣 氏
(北海道医師会副会長 / 北海道地域医療構想アドバイザー)

パネリスト

佐々木 隆行 氏
(北海道保健福祉部地域医療推進局
地域医療課長)

古元 重和 氏
(北海道大学大学院医学研究院
医療政策評価学教室 教授)

辻 喜久 氏
(滋賀医科大学 / 札幌医科大学 特任教授)

牧野 雄一
(旭川医科大学地域共生医育センター 教授)

中山 友佳 氏
(公立芽室病院 看護科)

東 信良
(旭川医科大学病院 病院長)

【閉会挨拶】

【主催】 国立大学法人旭川医科大学 【共催】 一般社団法人国立大学協会
【後援】 旭川市/北海道/北海道医師会/北海道市長会/北海道町村会(順不同)

【問い合わせ先】 国立大学法人旭川医科大学 地域共生医育センター

【TEL】0166-68-2792 【Email】symposium2026@asahikawa-med.ac.jp

【WEBサイト】 https://www.asahikawa-med.ac.jp/event/single/post_257.html



【WEBサイト】

フェスタ
国立大学2026

令和8年度国立大学未来共創シンポジウム共同開催のご挨拶 「地域と国の発展を支え、世界と繋がる国立大学！！」



一般社団法人 国立大学協会
会長 藤井 輝夫（東京大学長）

令和8年度国立大学未来共創シンポジウムの共同開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

国立大学はすべての都道府県に設置されており、創設以来、世界最高水準の教育研究の実施や多様な学問分野の継承・発展、高等教育の機会均等の確保、グローバル人材の育成、といった重要な役割を日本全体で担ってきました。また法人化以降は、各大学で特色ある教育研究や社会連携活動を行うなど個性豊かで魅力ある大学になるよう工夫を凝らし、その成果を社会に還元してきました。これからもわが国の発展を支える「知の拠点」として、常にわが国の「知の総和」向上に貢献してまいります。大学の枠を超えて教育・研究・地域貢献の力を結集する「国立大学システム」の構築を推進し、国立大学の活動が各地の皆さまをはじめ世界の一人ひとりのウェルビーイングに繋がっていくよう不断に努力し続けます。皆さまの更なるご理解とご協力、そして力強いご支援を頂きますと幸いです。

さて国立大学協会は本協会に加盟する国立大学と平成20年度から「大学改革シンポジウム」を共催してきましたが、さらなる内容の深化を目指し、令和7年度に「国立大学未来共創シンポジウム」へと事業名を変更いたしました。本シンポジウムは、国立大学の現状や果たすべき役割について対話を通じて皆さまに更に深くご理解いただく貴重な機会です。

本日の国立大学未来共創シンポジウムは、開催大学のご尽力により大変魅力的な内容となっています。本シンポジウムが参加された皆様にとって意義あるものとなりますことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

当協会は平成22年度から「国立大学フェスタ」と銘打ち、10月～11月の2か月間に各国立大学が地域と連携しながら実施するシンポジウムやオープンキャンパス、公開講座、市民講座などの様々な活動を集中的に皆様方に紹介しております。「国立大学未来共創シンポジウム」もこの「国立大学フェスタ」の一環として活動を展開することにより、国立大学の今を、地域、社会、産業界等、広く国民の皆様にご理解いただけるよう努めてまいります。